

戯 曲

彼と彼女を

なぜそう
させたか (三)

正木生投

幾子「いゝ知りませんの
朝雄「そうですか、この地
方としたりやア有名な温
泉なんですよ、水にい
くらか臭味が有ります
けど、その臭味がねラ
ジウムのように軽い感
じを興へる奴ですし、
特別保険に有効だとか
ですから、ご婦人には
非常に愛されてゐるわ
けなんです、
幾子「そう、朝雄さん知っ
ていらッしやること
朝雄「知つてゐますとも僕
なんか暇の時に「たい
くつ」しにぎにたまた
ま行く時ありますけど
それは、氣持のよい
ところですよ、
幾子「そうです、だけど
朝雄さん私お風呂には
いらないわよ、
朝雄「なんです幾ちゃんお
風呂にはいらないな
んで幾ちゃんにも似合
ないんだね、
幾子「でも私嫌だわよ、
朝雄「ホー(笑ふ)さまりが
悪いんですか、だから
僕は幾ちゃんの事あん
まりおぼこさんだと思
ふんですよ、阿がさま
り悪いんですそんなこ
とありますか、
野々村の電話によつて「イ
セックス」が鹿島館の前に
横づけになると同時に運轉

手の奴がけた、ましくラッ
パの音を立てた、
朝雄「おい君(運轉手)にオ
ーブンが、いゝね、幾子
ちゃん
野村「おい自動車の奴、來
たよ」いそいで三人共
自動車の人となつた、
野村「おい運轉手君「スビ
ード」はこの街道で何
里位だ、二十か三十五
位かい、
運轉手「そうです調子よく
行けば四十位まで出ま
すけど、え、
朝雄「そうかね、この間だ
ツウリングのハドン
だつたけど五十七哩出
たよ、
幾子「その位出てよ、私も
この前の日曜日にお母
さんと二人で葉山へ行
きましたけど、其の時
なぞは五十哩だつて、
そう云つてゐたのよ
(笑い乍ら朝雄の顔を視つ
めた)運轉手は眞面目にハ
ンドルを握つたまゝ、經濟的
にライトを一つ消して長橋
を過ぎた、いつか自動車は
K館と云ふ温泉旅館の前で
止まつた、
運轉手「K館でございます
「はい」
三人共車から降り立つと田
舎には珍らしく愛嬌のよい
女中が二人ばかり女關に出
迎へた、
女中(年増な女中に向つて)
春ちゃん七番がいゝわ
よ、お三人様でいらつ
しやいますから、

安價に
迅速に
町噂に
親切に

福島縣石城郡平町
遠藤活版所
電話七四三番

入 荷 山 積

ナフトール友仙
メリンス友仙
春柄本場銘仙
英ネル新柄
本セール
正絹帯皮

特に勉強の品々

最新流行行

會津桐材
自製専門
小松はき物店

磐城平町二丁目
電話九一〇番

モリタヤ

平町五丁目
電話三五三番

初めに願はしいお召ものは

洋 傘
ワイシャツ
ネクタイ
メリヤス
帽子
靴
女 生 服

中島寫眞館

平町字田町

よろこびごさいますか
うチりますよ



入 應 需 自 炊 の 便 あり

明雲堂眼科醫院

平町前 電話六六九番

ラ イ ト

寫 眞 館

平町才植小路
電話八四七番



高 級 車

グラハムページ

たしましたい車入がンダセ型新
すまひ願乗試御非是



貸切自動車の
用命は 昭利
高級車で 昭利
乗心地よ 昭利
平町前
電話 三四三番

の 春 陽

は 意 用 御

ハ ル ツ

平町四丁目電話一〇四番

洋 服 は

模 範 裁 縫

高島屋

平町前
電話八〇七番

表代城磐
酒 銘

味 美 經 濟 大 酒 油 醬 味 美

山崎合名社會
電話十番

